

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570102840		
法人名	有限会社あおき		
事業所名	グループホームあおき園		
所在地	宮崎県宮崎市大島町南窪807番地		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

- ・利用者一人ひとりの生活環境を整えることに力を入れており、その人らしい生活をしていけるよう支援に努めている。
- ・職員は利用者の思いを大切に、利用者へ寄り添ったケアを心掛けている。
- ・協力医、訪問看護ステーション、薬剤師と連携し、健康管理、健康維持に努めている。
- ・季節の行事食やお楽しみ食、地域行事への参加、庭の花植え等を行い、季節を感じてもらえるよう取り組んでいる。
- ・個々に合った排泄ケアに取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは市郊外の住宅街に位置している。管理者と職員は「利用者様にその人らしい安心・安楽な空間を提供し支援します」「利用者様に敬意を払い接します」と理念に掲げて利用者本位のケアに取り組んでいる。また、協力医による訪問診療や訪問看護と連携し定期的に適切な医療が受けられるように支援している。さらに運営推進会議の中で地域からの要望を受け、自家発電機等を取付けるなど、地域との協力関係を築くよう取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員間で理念である安心安楽な空間を提供していくために、会議で振り返りを行いながら実践に生かしている。	ミーティングや毎月の職員会議で理念を共有して実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りの参加や、地域の保育園との交流会を提供している。新型コロナウイルスの流行により、地域の方が集まる催し物や、園児との交流会はすべて中止となり、今年に関してはほぼ交流できていない。	地域の夏祭りに参加したり、年3回、保育園児がホームを訪れて交流会を行い、地域との交流に取り組んでいる。感染対策のため、令和2年度は交流出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や、地域の方に介護予防について話をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回行い、事業所からの報告や利用者様の生活等を報告している。施設内を見ていただいている地域の方との交流の場として大事な会議となっている。	地域の有識者が参加して運営推進会議を実施している。そこで出た意見や要望を、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告書や届け出を相談、実施するなかで助言をいただきながら運営に生かしている。地域支援包括センターへ連絡や相談を行い、サービス向上に努めている。	市の主催する研修会に参加して協力関係を築いている。コロナの影響で担当課との連絡や相談等も多く協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる具体的な行為」を事業所内に掲示しており、意識づけができるようにしている。身体拘束の内部研修も行い、拘束にならないケアの方法を考え対応するよう努めている。	2か月に1回定期的に、身体拘束の内部研修を行い全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待となる具体例を施設内に掲示し、職員の意識づけが出来るようにしている。不適切なケアの発生時に報告が上がるように体制を整え、虐待発生を未然に防ぐように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方と関係機関の連携を図りながら報告、相談を行い生活の支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書、個人情報保護、重度化した場合における当施設の指針を書面と口頭を交えて説明し、納得をして頂いた上で契約している。契約内容に変更があった場合にはその都度説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常生活の場面で意見、要望を聴きだすように努めている。ご家族には面会時や電話、サービス担当者会議の際に意見、要望をいただいている。	日常生活の中で要望を聞き、思いに応えられるように努めている。感染対策のため、面会が制限され、『顔が見たい』と家族の要望があり、写真を送ったり、テレビ電話をするなど要望を反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会議で職員全員から現状の課題を挙げてもらい、皆で検討している。改善が必要な場合は上司に報告できるような環境に努めている。	現状の課題について職員会議の中で話し合い改善できるように努めている。必要な課題は上司に報告し運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を考慮した上で希望休の要望に応え、働きやすい環境づくりに努めている。産前産後休暇、育児休暇を推奨し、継続的に働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加できる機会を設けているが、今年は外部研修の中止がほとんどのため、2か月に1回管理者、主任が職員を対象に勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との交流の機会を持っている。また、地域ケア会議に参加し、地域の事業所とも連携をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談からサービス提供に至るまでの間に、本人、家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等から本人の情報を聞き、情報を基に本人と話し安心できる生活環境をみつけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や思いを受け止めつつ、当事業所のサービス内容に理解をいただき、本人を支援する中でより良い生活の場を提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や問い合わせ時に現在の状況を詳しく聞き当事業所の提供するサービスの内容で対応可能か見極め、他機関や施設を紹介する対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話の機会を多く持ち、本人が何を望まれているのか、どういった生活を望んでいるのかを安心して相談できる関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や、3か月に一度のサービス担当者会議の際に生活の様子や取組の成果を伝えている。遠方や疎遠がちな家族様にも定期的に電話での連絡をし、状況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、親戚の方の訪問を通して共に過ごす時間を大切にいただけるよう努めている。ご家族の協力を得て、墓参りに出かける場をつくれるよう努めている。	感染対策のため、友人知人の面会は制限されているが、家族の協力の下、墓参りには出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活スタイルを大事にしながらも、一緒に過ごす時間を提供し、共に喜びを感じる空間づくりを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用に合わせて必要な支援、情報提供を家族や関係機関に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から情報を得て、それを活かした生活環境や日々の過ごし方を見つけ出すように努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を本人や家族から聞き出しながら、できる限り利用者本位に暮らせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を基に、その方に合った居室や空間を作るよう努めている。落ち着ける場所や時間を提供できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化に気づけるように努め、職員間で情報の共有を行い、申し送りノートや定例会で見直すことができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がいつでも閲覧できるようにし、職員それぞれの意見やアイデアを出している。その場面や状況に合わせてケア内容を見直している。	利用者本位の介護プランは本人の意向、家族の意見を取り入れ、ケアに携わる関係者で話し合い、アイデアを生かして現状に即したプランを作成している。毎月一回モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はセンター方式の「24時間シート」を使い、あわせて「短期目標、サービス内容」も記載することで、職員が介護計画を意識し、サービスがより実践的に行われるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズには出来る限り柔軟に対応するように心がけているが、医療面のニーズでは、対応が難しい場合もある。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「あおき園」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園との交流や、地区のふれあい会食会、福祉祭への参加等、日頃から地域の方たちにご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医の訪問診療を受けることができる旨を説明し同意を得るようにしている。本人やご家族がその他の専門医を希望される場合は診療できるようにし、状況に合わせて対応している。	ほとんどの利用者が協力医院をかかりつけ医としており、定期的に訪問診療を受けている。また、訪問看護ステーションとも連携し、健康管理や急変時の対応が充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと協力しており、週1回訪問をして頂いている。訪問の際は利用者の様子や変化等を伝えている。24時間連絡できる体制になっており相談、助言をもらえる関係にあり、適切に医療に繋ぐ支援が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時には協力医(主治医)の病院に入院できる。他の医療機関であっても必要な情報提供を行っている。入院中は家族、病院と情報交換を行い、退院がスムーズにできるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設の重度化した場合における指針を説明させていただいている。契約後も定期的に重度化した場合における本人、家族の意向を聞く機会を担当者会議等を通して設けている。	利用開始時に重度化した場合の対応について、ホームでどこまで出来るか出来ないかを説明し同意を得ている。本人や家族、医師、関係者が方針を共有して要望に応えられるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には連絡ガイドラインを作成しており、職員はそれに沿った対応をしている。事業所全体での訓練は実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災消防訓練を実施している。運営推進会議を通して、地域の方に防災訓練の参加や火災時の救助等の依頼をしているが、自治会も高齢化となってきたり難しくなっている。非常時の備蓄品も確保できている。	夜間を含めた災害避難訓練を年2回行っている。地域住民や自治会に避難訓練への参加や協力を依頼している。食料品や飲料水の備蓄をするなど、災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念に「利用者には敬意を払い接す」と掲げており、入浴や排泄には特にプライバシーに配慮した対応、声掛けを心がけている。一人ひとりの性格の理解に努め、適切な対応をすることで利用者の尊厳を守っている。	利用者の人格を尊重した言葉かけや名前の呼び方等に配慮したケアに努めている。特にトイレへの誘導や入浴時の対応には配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や動作から利用者の思いや希望をくみ取るように努めている。常日頃から自己決定、自己表現が出来るように声掛けや対応を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護理念に「その人らしい生活」を掲げており、各利用者が本人本位の生活が送れるよう支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりのこだわりを大切にしており、洋服選びや髪形のセット、女性利用者のお化粧品等自己決定できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節食、おたのしみ食、選択食等を取り入れ、楽しんで食事ができるよう取り組んでいる。片付けができる利用者様にはお膳下げや、お盆拭き、テーブル拭き等を手伝っていただいている。	利用者の好みを取り入れ、利用者と職員と一緒に、同じテーブルを囲んで季節食やお楽しみ食、選択食等を楽しんで食事ができるよう支援している。後片付けやテーブル拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録で残し、一人ひとりに過不足がないように把握している。飲み物はいろいろな種類を用意し、好みの飲み物を飲むことで水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け誘導を行い、夕食後には義歯の洗浄をしている。口腔ガーゼ等利用者の状態に合わせて適切な口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い一人ひとりの排泄間隔を把握し、トイレ誘導に繋げている。	排せつチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、定期的に声かけするなど、出来るだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便間隔をチェックしながら医療職に相談している。便秘傾向の利用者様には看護師の指導の下腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は概ね決まっているが、利用者の希望、健康状態に配慮しながら柔軟に対応している	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む場合は、日時を変更したり、タイミングよく声掛けするなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しつつ、本人が休みたい時には自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の服薬内容が確認できるようにファイルを作成している。薬内容の変更があった場合は、副作用や留意点を薬剤師に指導してもらい、日数を決めて評価し、医療機関に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや、たたみ、食事の片づけ、掃除等利用者の能力に応じて職員と共に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外食や墓参り、自宅に帰りゆっくりされる機会があったが、新型コロナウイルス感染予防のため、現在は家族、園での外出は行っていないため、ベランダで過ごすたり花植えで庭へ出て気分転換できる機会を設けている。	感染対策のため、ほとんど外出ができていないため、庭に出たりしているが十分とはいえない。難しい。	利用者のストレス解消を図るため、さらに日常的にホームの庭での花植えやベランダでの日光浴、家族への電話等、工夫して支援することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の預かり管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の意向で制限がなければ自由に使用していただける。現在は手紙を希望される利用者様はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節に合わせた装飾や、行事などの写真を飾っている。回廊式の廊下で迷われることも少なく、トイレや居室等の表記を大きくしわかりやすいようにしている。	採光や室温、換気等利用者が日々快適に生活できるよう配慮している。リビングにはソファや簡易ベットを配置し、利用者がゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを用意し、テーブルを分けることで気の合う方同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や馴染みのある物品等は基本的に自由に持ち込んでもらっている。本人や家族と相談しながら本人が一番リラックスできるプライベートな空間になるよう努めている。	家族と相談しながら、利用者の意向や個性を生かした部屋づくりを支援している。使い慣れた家具や写真、テレビ等を持ち込み、安心して居心地よく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいよう廊下にトイレまでの目印を設置している。希望される利用者様には各居室には担当の手作りの名前のプレート設置している。		